

2014年
1月9日
木曜日

利光 強 経済学部長

4年間の学生生活を総括する ——自己分析は社会人としての第一歩——

過ぎてしまえば、大学4年間の学生生活はとも早かったと思います。入学して間もなくの頃は、初めて体験することばかりで、右往左往しているうちに、初めての定期試験を迎え、夏休みでやっと一息。秋からどうにか学生生活をエンジョイしはじめ、2年生の秋学期から研究演習でのゼミナール活動。少しばかり経済や経済学に興味を持ったところで、3年生も終了し、就職活動に突入。やっと内定をもらったと思ったら、演習担当の先生にしごかれながら卒業研究論文を作成し、単位数を気にしながら、やっと(?)卒業。めまぐるしい4年間であつたと思います。

そこで、自分がすごしてきた学生生活4年間で振り返ってみてください。サークルや部活動、そしてバイトばかりの4年間では、少しさびし

いと思いませんか。あるいは、ある新書のタイトルではありませんが、「学生生活の思い出はシューカツです」ということでは、あまりにも貧相な大学生活ですね。大学で確かな学びができたのか。社会に役に立つような力を身につけることができたのか。ぜひ、自己点検・自己評価をしてください。

短い4年間では経済や経済学のことを十分に学べなかつたと思います。ただ、社会や経済についてわずかながらでも興味や関心を持ち、調べ、考えた経験が社会に出てから、きつと役に立つときがくると思います。

さて、経済学部では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー、略してDP)に基づいて、卒業必要単位を取得したものに学士号を授与します(経済学部ホームページに掲載され

ているので、卒業前に必ず見てください)。そのDPに書いてある基準を自分が果たして満たしているのか、どうか社会へ出るまえに、きちんと自己判定をする必要があります。それが、社会人としての第一歩であると考えます。自分がどのような人間であるかをきちんと分析できれば、社会に出てからも恐れることはありません。

大学の門戸は常に社会に対して開かれています。社会に出てからも、学びなおしの機会はいくらでもあります。そしてまた、「卒業したので、関西学院大学と縁が切れた」ということはありません。皆さんは関西学院大学経済学部の卒業生として、これからの長い人生を送っていくことになります。その長い人生を送るなかで、大学のモットーであるMastery for Service(奉仕のための

練達)を忘れないでください。それは、世界市民として社会のために何らかの形で貢献をしなければならぬ、というmissionを意味しています。そのための学生生活であつたことを振り返り、自身の4年間で総括してください。